

# 長崎工業高校による

## 船のための新聞

長崎工業高校  
システム科  
増田・浦  
田・横  
切・米  
岩

# 世界遺産に迫る

## 造船マシズ

Q：船、飛行機、トラックで最も輸送コストが安いのはどれでしょう。

A：正解は船。十トン当たりの輸送コストは船では十円ほどですが、トラックで

長崎港から南西の海上約十七、五キロメートルの位置にある軍艦島。正式名称は『端島』。軍艦島という名前の由来は、外観が軍艦「土佐」に見えるからです。ちなみに、日本で初めて鉄筋高層アパートが作られたのはこの軍艦島です。多くの人を惹きつける軍艦島。廃墟でありながら家電や暮らしがそのまま放置され、昭和の生活を実感することが出来ます。私は実際に行ってみて、遠くから見るとも迫力が感じられ、当時の島の人々の生活が想像でき、炭鉱という今ではなじみのない産業を見て学ぶことができ、とてもいい経験

は二十万円、飛行機では百五十万円もするのです。しかしそれぞれに長所があり、船は時間がかかるが、一度に多く運べ、コストが安い。飛行機は、運べる量は少ないですが、早く運べ新鮮なものを送るのに向いています。トラックは最も小回りが利くため使い勝手が良いです。(岩切)



長崎市野母崎町より見える軍艦島

になりました。「軍艦島」は今話題のスポットで、世界遺産になったり進撃の巨人の撮影に使われたりと観光客も急増しています。あなたも炭鉱の島が重ねた歴

史とその魅力を体感していませんか？(横浦)

## 豪華客船来航!!

この船はクアンタムオブザシーズ(クルーズ客船)二〇十四年十一月就航。全長三百四十メートルあり、展望カプセルやスカイダイビング施設を備えている。長崎に寄航する船はこれだけに限らず、サファイアプリンセス、マリナーオブザシーズ



松ヶ枝ターミナルより撮影

などがある。中国沿岸部からのクルーズ船が増えていく。欧米からの旅行者と異なり、中国人観光客は買い物中心、いわゆる爆買いをするので一度の寄港で経済効果は約四千四百万にもなると聞く。実際に間近で見ると多人数の多さ、買っ量といふ多量なものなのでこれからもさまざまなクルーズ船の寄港による経済効果に期待できる。(日系ビジネスオンライン参照)(米田)

# 身近な世界遺産

## ソロバンドックに行ってみた

今回小菅修繕跡(ソロバンドック)を訪れました。実際に間近で見るとは初めてで当時使われていたドックやこんにやく煉瓦という日本最古の煉瓦造りを見る事ができ当時の環境を肌で感じる事ができました。ソロバンドックとは、一八六九年薩摩藩とスコットランド出身の商人グラバーによって建設された船舶修理施設で、日本最古の蒸気機関を動力とする曳揚げ装置

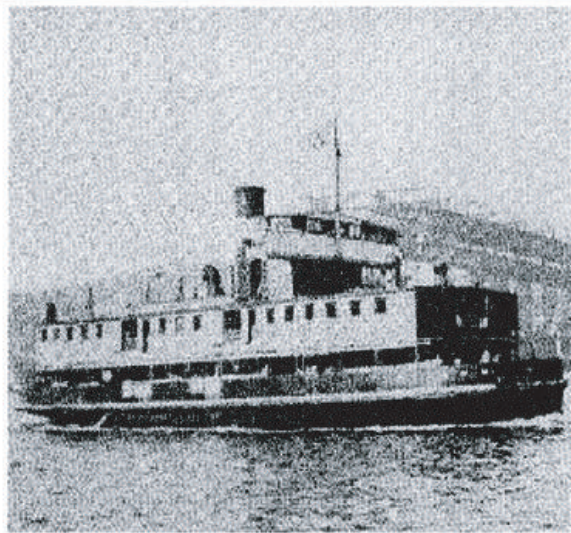


普段見ることができない一枚

を装備した洋式スリップドックです。当時は外国から船を購入してばかりで、ドックでは修繕のみを行っていました。ガイドさんより、「修繕を行いながら外国船の研究を行い日本における船の製造に結びつけていたと考えられる。」と聞き、私はこのソロバンドックが日本の船の産業革命が行われた地だと感じました。土日にはガイドさんもいますので、ぜひ皆さんも訪れて当時の日本の技術に触れてみてください(増田)

# 長崎の溶接と船の歴史

鎖国時代を通じて開かれていたただひとつの港であった長崎で、窓口にしているような技術が日本に伝わりました。工業技術の鍛造や切削などの多くの技術も長崎を通じて日本に伝わっています。アーク溶接の技術も二十世紀に入ってから工業化された比較的新しい技術ですが、これも長崎を発祥地



日本で初めてアーク溶接によって建造された「諏訪丸」(長崎県溶接協会より)

としてます。日本で電気アーク溶接を使用したのが三菱長崎造船所です。三菱長崎造船所は一九百十四年に三名の技術者をスウェー

デンのチェルベルヒ社に派遣して技術を習得するとともに、特許実施権を得て溶接棒を自作し溶接オペレータの育成に努めました。そ

の結果、一九百二十年には早くも全溶接線「諏訪丸」を建造しました。なお、諏訪丸は長崎湾内を航行する四百二十一トンの小さな交通線ですが、建造したタイミングは世界で始めて建造された全溶接船の進水に遅れることわずか数ヶ月という驚異的な進取性でした。今回調べたことで最も印象的だったのは長崎という土地の重要性でした。様々な技術の発祥地として歴史に名を残し、現在でも鶴の港と呼ばれる場所として今後も国内外の人々に親しまれたいと思います。(岩切)

## 伝統芸能

## ペーロン

ペーロンの起源は、紀元前三百年頃の中国の出来事でした。政治家の「屈原」という人が、使えていた王様が「張儀」という策略家の畏にはまり幽閉されたことで、自国の今後の国運を嘆き、石を抱いて入水自殺をしました。その霊を慰めるために「白竜」と呼ばれる船で競漕したものが、今のペーロンの起源です。ペーロンが慰霊のために行われていたことには驚きました。「ペーロン」という言

葉は「白竜」(パイロン)がなまったものだそうです。長崎で行われるようになったきっかけは、端午の節句の行事として中国人が行っていたものを町の子供たちがまねをし、いつしか大人たちの競漕になったようです。その後、ペーロンの勝敗に熱くなりすぎて喧嘩が起こり死者が出たり練習や大会後の飲み食い無駄金を使うという理由で奉行所から禁止令が出ました。廃ってしまうどころか

延々と続けられて受け継がれてきました。海人である長崎人の熱き心が色濃く表れていると思えました。今も昔も行事とはいえ勝負事。いまでも長崎の夏を代

表する風物詩となりましたが、先人たちの熱い思いを胸にペーロンを廃れることなく後世に伝えることができたいなと思えました。(岩切)

## 造船を専門に学ぶ高校

昭和十二年、四月二十九日長崎県立長崎工業が開校しました。設置学科は応用化学科、造船科、木材芸科でした。昭和二十三年に長崎県立長崎工業高等学校と改称し機械科、電気科、建

築科が加わり六学科となりました。現在は、私が所属する機械システム科造船コースを含む八つがあります。造船コースでは機械の基礎科目の他に造船に関する専門の造船工学I、造

## 熱闘ソーラーボート

「二〇一五柳川ソーラーボート大会」に本校の課題研究班、ソーラーボート班が出場した。国内に限らず、東南アジアの国々からの出場もありとても熱い戦いとなった。メンバーに大会に向けての意気込みを聞いてみると、「どの団体も全力で取り組んでくると思うので際の戦いになる。だから私たちは際にこたわり、実際の船型、プロペラのなめらかさ、ペイントに力を入れ、大会に臨んだ。絶対に優勝する。」と熱く語ってくれた。なお、指導をしてきた先生は

船工学IIを学ぶことができます。造船工学Iでは船舶設計における計算を学び、造船工学IIでは船の構造、各部名称について学んでいく中で船舶の基本的な知識を培うことができました。実習では、船の建造において大切な技能の溶接をはじめ、旋盤、フライス盤など



ソーラーボート大会の1コマ

「生徒たちが協力すれば大きな力になる。次々にだす課題やボートの試走など協力しながら達成していく姿をみて改めて、仲間と協力する大切さを学んだ。今年こそは優勝を狙えると思うのでがんばってほしい。」とのことでした。(米田)

汎用機械を安全に作業することを学びました。また、アルキメデスの原理、排水量計算、三次元CADなど船の設計に重要な学習をしました。学習を通して、船についてさらに興味を持ち学ぶ中で進路の実現をすることができました。(増田)